

あまでうす

『岐阜信用金庫で 展示会』

毎年、地元の各務原市中央図書館で、2月に『シニア展』、10月には『岐阜OKBふれあい会館』で「わたしの個展」を開催している。

そして、岐阜信用金庫各務原駅前支店で開催するのは、今回で3回目となる。もともと予定としては、8月に開催するこ

とになっていったのだが、10月に延期になった詳細は、11月号で詳しく書いていきますので、読んでいただければ幸いです。

10月19日に岐阜信用金庫閉店後、店長と今回の展示会に付いて、何をテーマにどう展示するかを打

ち合わせしました。過去2回展示した様子を写真に撮っていたので、それをスマホで見せながら説明し、色々と二人で話を進めた結果、10月25日から一カ月間、『懐かしいの昭和』をテーマに、様々な昭和のグッズを展示するという事になりました。

というのも、過去2回の展示では、オリジナル掛時計、写真、書、掛軸、手工芸品などを展示してきたからでもある。

今回は、懐かしい昭和をテーマに、現在も時々聴いているレコード(ジャズ、クラシック、「ポップ、ロック、歌謡曲を各1枚づつ)。たまに使っている、35ミリフィルムカメラ2台(ミノルタ一眼レフと、ヤシカレ

ンジファイナダー)、1970年開催の大阪万博記念メダル、1984年開催の名城博記念メダル、日本のゴキブリの主題歌入りブルマイド、外国の映画の主題歌入りブルマイド、昭和時代の手巻腕時計、自動巻腕時計、ブローバ音叉時計、逆回転時計など、すべて使っていた腕時計を9点、たまごつち3点、ルパン三世フィギュア、キクゾーロボット、ソノシート、その他にも色々、懐かしいグッズを展示することになった。

搬入日にレイアウトを済ませた後、店長に展示品に付いてちよいと聞いてみた。「この中で知っているものはありますか?」すると、石原裕次郎(レコード)、プリントゴッ

コを使っていたそうだが、ゴジラが持っている1D0の携帯(これも使っていたという)、ビートルズ(レコード)、ユーミン(レコード)、ルパン三世のフィギュア、そしてロボットキクゾーを見て、「これスターウォーズ?」と聞かれた。確かにR2D2によく似ている。また、名古屋城博で撮った金シャチの写真下に、1984年名古屋城博で撮影したと書いたコメントを見て、「僕が生まれた年です」と。

9月に、風地蔵で『懐かしの昭和展』を開催した時に、見に行けなかった友達や近所の人達が今回来てくれ、また例によって展示品の解説をかいっまんて話しました。友達(年齢層の違い)に

よって、反応がそれぞれで、いと面白い。という感じでした。この時に、店長と話すなかで、12月の予定がないので続けて展示をよかつたらしませんかと言われ、「是非」と返事をして12月末までの続行となった。

2021年早々の展示会予定は、2月に地元の中央図書館で『シニア展』があります。今回は、名古屋城博で金シャチが屋根から下におろされた時に撮った雌の写真、ブータンが発行した、『彫刻の歴史』(エンボス加工したプラスチック製)切手、オリジナル掛時計の3点を展示する予定であります。

風地蔵新聞

第207号

題字 岩瀬桃谷
発行 編集
風地蔵
白石 美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町85
ご感想・俳句・お
エッセイ・お
七歌など
短歌待ちま

拡大止まらず

大橋 美紀

12月10日の本
日コロナウイルスに
感染者が全国で29
7人、東京都で過
去最多602人、私
達が住む岐阜県も4
5名と過去最多にな
りました。お店に、
介護施設そして病院、
今では高校、大学も
クラスターとなって
います。
重症者も増え北海道
や大阪は医療体制が
ひっ迫していると言
うニュースが毎日伝
えられていきます。止
まることがない感染
拡大。コロナが見つ
かり初めての冬を迎

えています。一人一
人もう一度拡大を防
止するために手洗い、
うがい、マスクに換
気、この乾燥する季
節はそこに加湿も大
切となってきます。
大切な命を守るため
に見直すことをして
いかなければいけない
と思う毎日です。

私の母も高齢です。
毎週末お友達とモー
ニングに行くことが
楽しみとなっていて
したが、もし感染し
たらと考えると楽し
みを奪うことも仕方
がないと思います。し
ばらく行かないで」と
私が止めました。そ
の代わり、休みの日
実家へと行きその日
の朝に作ったスイー
ツを持って、リクエ

ストメニューを作っ
てカフェごっこをし
ています。
それでも少しでも喜
んでくれれば、どの
思いから始めたので
すが、今では「今度
は、なにを作っても
らおうかなあ」なん
て言っていて、楽し
みにしてくれています。
メニューは主に喫茶店
メニューです。普段
母が作らないもの、
作れないものが多い
ですが、歯も少し弱
くなっていますので、
サラダも「キャベツ
の千切りは嫌」だと
か「トマトの皮は入
らない」とか注文も
多いです。オムライ
スやパスタが好きな
のでそれをつくると、
母のテンションが上

がつているのが伝わっ
てきます。「もうで
きたあ」「美味しそ
う」「いただきます」
とペロツと私と同じ
量を食べ、完食を毎回
してくれます。
他から見るとよく
「どつちが親なのか?
わからないね」とい
われますが昔時から
私と母はこんな感じ
です。
5人姉妹の末っ子と
して育った母、長女
として育った私だけ
こんな世の中ですの

で、毎日とは出来ま
せんが電話は常にし
ています。(安否確
認)
もちろん実家でも食
べるもの以外はマス
クを私も母も着用し
ています。(私がう
るさく言うからです
が・・・笑)まだま
だこのマスク生活が
続きますが年末年始、
笑って過ごせるよう
に守りたい命を一人
一人が思うことが大
切ですね。



おばさん
女子大生奮闘記

遠藤 暁美

一、その時が来た

今は昔、十九歳の私は迷っていた。前年受験した大学を不合格になり、浪人して受けた学校が二校とも何とか合格したが、地元の小立大学と離島の短大、どちらに行くべきか？大分は文学部で、本好きの私としてはそちらの方にひかれたが、当時は女子が四年制大学を出ても就職が難しい時代だった。父がもう定年退職していたので、卒業後就職できないというのは許されないことだった。大学に未練を残しつつ、短大の保育科に進んだ。いつか機会があれば、やりたい勉強ができる時がきつと来る、と思いつつながら。

月日は流れ、五十歳の十月、私は雨の中、阿蘇高岳に登っていた。丁度一年前の十月、夫に肺癌が見つかり、あつという間に十二月始めに亡くなった。それ以来、私は自分でも驚く程、氣力を失くしていった。仕事を辞めていた。経済的に自立していたし、姉妹は近くにいるし、親しい友人も趣味も持っていないから、夫がいなくても自分は大丈夫、と思っていた。喪失感、深い。仕事をして帰ると泣いてばかり。泣きながら夫の体調を責めた。そして

いかに夫によりかかっていたか、初めて思い知ったのだ。所属していた山歩きの会も休みがちになった。十月の山行は阿蘇という。夫が愛した阿蘇は私には辛すぎて欠席の返事をしたが、心配してくれただけの仲間の強い誘いに重い腰を上げた。久々の山行となったのだ。仙酔峡からの登山道は通称「バカ尾根」と呼ばれる。「バカ

に行こう！」と唐突に思った。保育科を選んだのは大正解で、苦しくも楽しい充実した日々の中で、その昔、文学をやりたいと思つたことも忘れていたというのに。高岳から中岳への道をたどる頃には雨も上がった。「山に行こう。体が動けば頭も心も動き出すよ」と誘ってくれた仲間と感謝の気持ちでいっぱいだった。「いつかやりたい勉強ができる時がきつと来る」と思つた十九の頃を思い出して、その時が来た！

佐藤 凱翔

12月6日 日曜日。

この日ママとBAは岐阜県大垣市に。ママは7日まで、BAは9日まで岐阜県に向かった。6日の朝GIとらんちゃんとおちゃんは、ママと

んごつ登る」からだそうだが、登りは急で、岩ごろごろで足場も悪い。雨に打たれながら足を運ぶ。高岳の頂上に着いたが、久しぶりの山行のつべんから下界を見た時、ふいに「私、ひとりでも生きていけるかもしれない」と思つたのだ。何か大きな力で生かされている。と感じ胸がいっぱいになった。「そうだ、大学

BAを送りに福岡空港へ。実は、この日小郡子ども劇場にてクリスマス会の日。担当になったクリスマス会は、出し物もある。なんと紙芝居。3つほどママが厳選した紙芝居。さあパパはよめるかな？朝10時から始まるクリスマス会。準備はたしか時間前の8時からだったはず！パパとれい君は一番乗り！みんな来るかな？30分後。誰も来ない。あれ？時間間違えたかな？と思つたママに電話。でない。だれもいない会場。パパとれい君はポツン・ポツン。もうちょっと待つてみよう。8時50分まだ誰も来ない。ママからの電話の折り返しもない。ちよつと不安になった時、やつときた！「おはよう早いね！」と子劇の運営の方達。「はい！8時から待つてました！」とはさすがに言えず準備始

め。あ！れい君危ないからちよつと待つてねと他の人に見てもらい荷物を取りに。部屋を出た途端大きな泣き声が・・・

置いていかれたれい君が人見知り全開。「ウワー」っと泣いていた。いきおいよくとびついてきた。甘えん坊なのです。準備も終わり待つだけ。らんちゃん達も到着。パパの紙芝居はトップバッター。3つの中からどれから読もうかな？と手に取れたのが「マツチ売りの少女」読み終え、さあ次読もうと思つたら「ハイ時間切れ」そこまで開場の時間が沢山とれいとつでおしまい。3つ読む気でいたから少し残念。

みんな静かに集中して聞いてくれてパパ一安心。れい君をおんぶして読んだパパ。後ろからあいの子を入れていたれい君。楽しかったのかな？椅子取りゲームにマリンバ。そしてお菓

子すくいに皆和氣あいあいとでクリスマス会は無事大成功。パパは、出演料として漬け物もらい満足。たまには前で何かをするのもいいかな！さて時はながれ夜。ママとBAがいない夜。おんぶするだろ！わがままするだろ！と思つていたら意外と素直な3人。世話やきのらんお姉ちゃんがあおちゃんとい君をカバーしてる。あおちゃんがイタズラすれば「だめよ！」と止めに行き、れい君がうるちよろして

を抱っこするのもお手物。それだけではない。らんちゃん自身甘えられる時は、パパやGIに甘えてるのだ。要領がいい子なのです。あおちゃん自由。したい時にしたいようにしてくのがあおちゃんお腹すいたら何か食べ、眠くなったら横になり、遊びたくなれば遊びだし・・・と、とにかくマイペース。イタズラも好きなあおちゃん。何時もいつも怒ってしま

うけどらんちゃんのおかげで怒らない。あおちゃんもダメと言われればやめていく。いつも保育園ではこうなのかな？しつかり者のお姉ちゃんに自由人なあおちゃん、そして甘えん坊なれい君。やっぱり1番しただからだろ

うかすごい甘えん坊みんなの後をついていき、足につかまり、抱っこを要求。抱っこしないと言え泣き。ママとBAがいない間はおんぶパラダイス。ゆつくりしてたり、笑つて見せたり・・・おんぶされるとすぐ寝てしまうのがれい君。コテツと力が抜けたら寝てるれい君。おんぶで寝ないことがないのだ。そんなれい君はおんぶされるかお姉ちゃんに遊んでもらうか甘えんぶがあつたのかなあ。そんな感じの夜。たいしたハプニングはなかったけれどわんぱく3人組の関係がよく見れた。

お便りします

これだけ長く続けられること毎回書けることはすごいです。庭師の奥田さんの情報も入ってくるので読ませて頂けることに感謝しています。

私はお友達3人で施設で歌を唄ったりしているのですが今年2月からは、ずっと中止になっていて来年いつ頃からできるのか分からないです。

中野さんのコンサートにも本当は来たかったのですが、今はお友達とランチやお茶も行かず一人で出掛けることばかりです。風地蔵は静かでゆっくりお茶ができるので気に入っています。(Kさん)

ちよつと立ち話

まあ！向こうから歩いてらっしゃるの、そうじゃないかと思いました。お久しぶりです。なのに新聞読ませてもらっているから久しぶりの気がしなくて。(ご近所さん)

いつも風地蔵新聞読んでいてパワーがあるなあと思って読んでます。私もそのパワーもらいたいです。うらやましいと思っていました。(ご近所さん)

12月6日に社長が里帰りされました。こちらのお友達や知り合いの方、そして絵手紙で交流のある方が6日と7日の2日間社長に会いにいらっしました。やっぱ社長のパワーはすごいと感じました。(松尾さん)

ました。りおんちゃんも久々に友達にお会いできたので嬉しかったでしょうね。

ご主人が亡くなって改めてまた生まれ変わって一緒になるって言えるご主人は、本当に外見？じゃなく素敵な方だったんでしょね。病気が見つかって2ヶ月半は早いですよね。私の母も父がガンが見つかって2ヶ月で亡くなってしまったので、少し変な行動をする様になり、私も心配する毎日でしたがもう10年を過ぎ「今が一番幸せ」と言っています。

とっても楽しくそして思いが伝わってきました。2月3月？には家が完成するそうですね。広くなり3人のお子さんも大喜びでしょうね。(大橋)

「おかあさん！あさから号泣した。あのさ、北九やったつけ、繁華街に絵

手紙展観にいったやろ。ラブレター展やったやんその絵を思い出してね、号泣した。これ読んだ人みんな泣くよ。その光景がみえてくる。自分が死ぬのが怖くないと思えたって、素敵なことやん。かいつもそうであって欲しいし、とりあえず、ガンのことで泣けた。かいとがそうならうちはどうするんかなって思ってた。(遠藤さんの原稿をあき仕事行く前に入力したすぐのりおんのことばでした。)

大橋さんの所のワンコほぼ毎日というくらい話をきいていて、自分の所のワンコと今は亡くなっってしまったけれどくらべています。棟上げの時の事は、社長からと動画で見えています。

「おかあさん！あさから号泣した。あのさ、北九やったつけ、繁華街に絵

つい昨日のこのように社長達が風地蔵に帰ってきた日を思い出します。まさに台風一過でしたね。

遠藤さんのかわらないご主人への想いが伝わってきます。生まれ変わってもまた一緒にいたいってすごいことだと思えます。本当にありがとうってなかなか言えないことなので、私も夫にはその想いはずっと持っています。

奥田さん奥が深いですね。あまでうすさんの話は、発見が多いですね。

明けましておめでとうございます。コロナの中、風地蔵を応援して下さい。まだまだコロナは終息しないようです。けど、コロナに負けないで、これから頑張っていきたいと思います。(鎌澤)

久しぶりの帰郷 & 絵手紙展

鎌澤 宣子

十二月六日、七日と社長とリーちゃんが久しぶりに風地蔵に帰ってきました。そしてもう一人マルシェでお世話になった福岡のマミーの宝箱さん、初来店です。

今回は、三人の小さな子達は男どもにあずけての3年半ぶり？の帰郷です。きっかけはマミーさんが「風地蔵にいきたい」「美帆さんも一緒にいかなんね」ということでせっかくいくのであれば絵手紙展と絵手紙年賀状講座をしたいよね。というところで開催が決まりました。慌ただしく準備をどういう風にやるのか、マミーさんの一閑張りやはぎれ、バックなども展示を一緒にしようとなり準備を進

めていきました。

そしていよいよ帰郷の日いつものごとく、初っぱなから福岡空港の中を端から端へと全力逃走したのだとか。必ず何事もなく終わることがない私達、あつ今回は社長とリーちゃんともマミーさんでした(笑) そうなんです。いつも九州に行くと、行きか帰りかで、新幹線や飛行機に乗り遅れそうになつたり毎回ハプニングがおきるんですよね。何でだろう。

それはさておいて本題に戻ります。飛行機に無事乗り込み一路岐阜に。風地蔵着は、1時過ぎになるという事で、準備をして到着を待ちます。社長にお会いしたいと昼過ぎにはお客様も来店されたいっしょにそわそわしながら社長のタイムラインを開くと飛行機がまだ出発してないとか、何何？と心配していると1時過ぎに無事お顔が見れて安

心。飛行機でのこのためんまつを聞いて、そういうことだったんだと胸をなでおろしました。

荷物をほどく間もなく、すぐに展示の準備マミーさんもぎりぎりまで作ってくださったバックを出してご自分で展示もさるで作品の苦労話や、こだわりをお聴きして、じかにお聴きすることでより愛着が沸きます。ひとつひとつ手にとり、見ながら聞いて本当にすごい！とこれは絶対に売り切ることが一番だなと感じました。

社長の絵手紙はまだすべての準備ができてなくて、みんなで準備をしていきます。その間に次々に久しぶりのなつかしい顔ぶれが。風地蔵に足を運んで社長とおしゃべり談義に花が咲き、展示の仕方は社長の頭の中にしかないので私達も手にとまります。その間に防

災士さんや神戸の先生、私達が絵手紙をやるきっかけになった岐阜の先生とさらに社長に会いにかけて下さいます。こうして大勢の方達を動かす力ってすごいんです。私達も負けてはいられないとパワー全開にします。相乗効果で風地蔵店内も笑い声のひびく店内となりました。

社長は夕方になってまだ展示の準備が終わらずにパニックになっていました。(笑) 私は心の中でいつものことですね。と思っていました。なんくるないさーです(笑)

残りは明日の午前中にまわして夜は久しぶりの朝日屋さんの味噌煮込みうどんです。私はいったん店に戻り、社長に迎えに来てもらいました。私達が展示の準備や接客している間にリーちゃんは無言とお庭の草を刈ってくれたり片付けをしてくれました。リーちゃんと

は夜は別行動。剣道仲間の友達との会食に、私と社長とマミーさんは、朝日屋さんに久しぶりの味噌煮込みうどんと、ミニ鰻井のセットを食べて、たまらないんですよね。一年ぶりの再会とほぼ初めましてのマミーさんと社長のかけあいがおもしろくて、ついつい聞き入ってしま。社長から「なにかおこつとんの？」「いいえ。もう漫才みたいでおもしろくて」とそんなことで初日の夜は終わります。

明日は朝から準備をして、お昼までには終わらせないとですね。三日の取材と絵手紙教室があります。どうなることやら。と思いつつも楽しんでる自分がいます。つづく

乗務のよもやまの話

岐阜県羽島市 丹下 哲也

昨年の8月に風地蔵さんで開催された「昭和にタイムスリップ展」の国鉄関連コーナーで大変お世話になり、新聞投稿できる機会を与えてくださり感謝申し上げます。今回は、乗務にまつわる話をしてみたいと思います。では、さっそく本題に入りたいと思います。

■ああ勘違い。隣は何する人ぞ。

憧れの電器機関士見習になつてまもなく事件？が起きました。ちょうどその日は平日でしたが、私は休日でしたので自宅に居ました。すると、お隣の奥さんが回覧板を持って来ました。私の顔を見るなり、「今日はお休みですか？」とお尋ねになります。「はい。休みです」と答えました。翌日、出勤時刻が12・59のため11・30頃自宅を出る予定で居たところ、また隣の奥さんに会いました。「あれ？あの人今日もお休みかしら？」といった感じで見られていた。その後、予定通り出勤し、名古屋静岡間の乗務を終えて、名古屋に2・04に到着しましたが、帰りの電車がなく、職場の休養室のベットで朝まで仮眠し、朝9・00頃帰宅しました。遅い朝食を摂り、買い物に行こうとすると、隣の奥さんに会いました。「あれ？」といった感じで見られていた。翌日は、3・45の出勤なので、前日の夕食後、職場に21・00頃着くように出勤し、休養室で仮眠しその後名古屋浜松間を乗務し、名古屋に16・10に到着し、18・00頃帰宅しました。翌日は、13・11の出勤で早目の昼を摂り11・30頃自宅を出ます。すると隣の奥さんにまたお会いしました。「お休みですか？」と聞かれる前に、「これから仕事に行くところですよ」と言い勤務に

出ました。名古屋静岡間を乗務し、翌日名古屋に4・36に到着。仮眠することなく始発電車に乗り、自宅には朝7・00頃につきました。朝食後、一眠りする前に庭に出ると、また隣の奥さんが居ます。「あれ？たしか昨日の昼頃お見かけしたのに、朝には自宅に居る、何でだろう？」といった感じで見ています。あいにく、その日は勤務明けで、翌日は休みでした。ますます謎は深まるばかりです。その後、しばらくして今は亡き母が「お隣さんが、息子さんの職業は何ですか？」と尋ねられたので、「息子は国鉄で運転士をしております。勤務時間が不規則なのでいつも自宅に居るよう感じられたのではないかと思いましたが」と答えておいたこと。奥さんが夜中、安らかにお休みの間、私は列車を夜通し運転していますよ。どうかご心配なくお休みください。決して、自宅で私の姿を見ても、驚かないでくださいな。これが本当の「ああ勘違い」でした。

■とにかく眠い、眠い、ムニヤムニヤ。運転士の仕事は、普通のサラリーマンと違って、朝出勤して夕方帰宅するパターンではなく、担当する乗務列車の時刻により出勤しています。したがって、出勤時間も、帰宅時間も、出先での食事時間、睡眠時間や休憩時間も、もちろん帰宅時間も仕事ごとに違って、自分が、初めて見習運転士として乗務することになったとき、何度となく指導員から、「運転士として一番のミスは、乗務員以前の問題だが、出勤時刻に遅れることだ。幸い予備乗務員が居るから列車運休の事態は免れるが、後々何かとこのミスを指摘されることになる。勘違いをして出勤時刻を間違えることがないよう、自宅に勤務表を貼り付け、家族共々日々確認して勤務に当たるように」と言

われしました。また、「早朝の出勤時には、前日早めに職場に来て休養室で十分睡眠を取ること。出勤時刻ギリギリに職場に来るのもいけない。出勤途上で交通機関が遅れたりすることも考えられる。出勤時刻の1時間前に来いととは言わないが、せめて30分位前には来て余裕を持って勤務するように」とも言われました。かつて、東京大阪間を寝台急行列車<銀河>号が運転されました。その列車を名古屋から静岡まで運転を担当した時の事です。出勤時刻が23・48でしたので自宅を22・00頃に出ます。最寄り駅に向かう道中暗く、駅に着いても人は誰も居ません。電車に乗り職場に向かいますがその頃は乗客も少なく、危うく車内で寝過ごしそうになります。職場に23・10頃到着して制服に着替え、

乗務前の準備をして点呼を受け、名古屋駅に向かいます。大都会名古屋もその頃には人通りもなく、寂しい夜道を駅に向かつて歩いて行きます。0・33に列車が到着しますが、到着ホームには0・20頃に着くようにします。待つことしばし、やつと担当列車が到着しました。大阪から運転してきた乗務員と交代し、出発準備を整えます。0・39に発車し、途中浜松に20分程停車し、後続列車2本に道を譲ります。時刻は午前2時過ぎ。運転席に座っていると眠りそうなので、ホームに出て体操などして眠気を吹き飛ばします。やがて発車時刻が来て静岡に向けて走って行きますが、しばらくするとまた眠気が襲ってきます。窓を開けたりして眠気をこらえ、静岡に3・31にようやく到着。東京まで運転す

る担当乗務員に引き継ぎます。何しろ特急で2時間10分位で走るところを寝台列車で早く走る訳にもゆかず、約3時間の行程になりました。その後、静岡の休養室に入り寝間着に着替えて爆睡します。寝床にはいった途端、眠りに落ちます。こんなに眠ったことはい位爆睡します。さすがに、4時位まで起きていると眠いです。今、同じ仕事をやってくれと言われても、興味はあるけどやはり体力的には無理かな？今では懐かしい思い出です。最後までお読みくださりありがとうございます。また、お会いしましょう。

久しぶりの再開

風地蔵さんの社長が数年振りに岐阜に帰ってくる(戻ってくる?)と聞いて仕事の合間にお店に訪ねて行った。

玄関先で呼んで頂き待っていて、久しぶりのご対面。「おー！久しぶりです」と挨拶。「わたし、娘です！」

なんだ「りーちゃん」か。今では立派なママなのでりおんさん。間違えた。瓜二つ。思いっきり笑った。あの頃はまだオムツだった？のねえ。

社長と最後に会ったのいつだったのだろう？随分久しぶり。変わっていないと言えはいい、変わったと言えは変わった。出合いはまだ造園会社時代のお店のオープン前。31歳が来年50歳。お互い変わるに決まっている。

10分くらいの立ち話。ふたりは戦友みたいなもの。

また、会いましょう。

庭師 奥田良樹